

丹後地域振興計画

京都府丹後広域振興局

目 次

- 1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）
- 2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト
- 3 「わくわくする丹後」の実現に向けた対応の方向性
- 4 具体的施策

丹後地域振興計画の数値目標

参考資料

1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）

（１）防災分野における連携協力体制と交通基盤の整備

- ・ 近年頻発する豪雨等災害の経験を踏まえ、行政、関係機関、地域の自治組織、関連団体と連携協力し、防災活動に取り組む機運が高まっています。
- ・ 京都縦貫自動車道や舞鶴若狭自動車道により関西・中京圏とのアクセスが向上し、山陰近畿自動車道の整備進展も期待されます。京都丹後鉄道と合わせた交通基盤は、交流人口の拡大や観光振興、地域経済のさらなる発展を支える重要な強みとなっています。

（２）誰もが生き生きと活躍するコミュニティの形成

- ・ 自然環境や住宅環境等の豊かさ、また顔の見える関係性の近さが、合計特殊出生率が京都府や全国平均に比べ高い水準になるなど子育てのしやすさにつながっています。
- ・ 100 歳以上の長寿者割合が高く、多くの高齢者が農林水産業や地域活動、伝統文化の継承に携わるなど、生涯にわたり活躍する地域風土が根付いています。健康長寿と豊かな地域コミュニティは、丹後地域ならではの貴重な人的資源となっています。

（３）丹後地域の魅力発信と愛着の醸成

- ・ 行政、関係団体等と連携した移住定住支援体制や地域の受入れ環境の整備が進展するとともに、若者活躍に向けた地域の魅力発信の仕組みが構築できていることが強みです。
- ・ 郷土教育や探究活動など、各学校において児童・生徒一人ひとりの主体性を大切にした教育活動が展開されています。

（４）人々を魅了する自然景観やロマンあふれる歴史・文化

- ・ 天橋立や伊根湾、山陰海岸など世界に誇る自然景観と豊かな地質遺産、170 を超える温泉資源を有しており、海・山・川が織りなす多様な自然環境と四季の変化は、観光や農林水産業、ものづくりを支える大きな地域資源となっています。
- ・ 古代から大陸交流の拠点として栄え、「丹後王国」の歴史や古墳群、伝説・民話、舟屋群やちりめん街道など多彩な歴史文化資産が今も息づいています。地域固有のストーリー性に富んだ文化資源は、観光振興や地域ブランド形成の大きな強みとなっています。

（５）豊かな食やものづくりの伝統・技術

- ・ 丹後産コシヒカリやブランド京野菜、丹後産フルーツ、間人ガニ、伊根ブリなど豊かな食資源に加え、300 年の歴史を持つ丹後ちりめんや高度な技術力を誇る機械金属産業が集積しています。伝統と先端技術が共存する産業基盤は、地域経済の持続的な発展を支える大きなポテンシャルを有しています。

2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト

丹後地域のポテンシャルを最大限に活かして、以下の重点プロジェクトを展開します。

(1) 災害に強い安心・安全な丹後地域構築プロジェクト

- ・ 豪雨災害による被災箇所の早期復旧に取り組むとともに、豪雨や地震などの災害による被害を食い止め、地域住民の安全な暮らしを確保するため、道路の強靱化と維持管理を行うとともに、河川整備や治山対策を推進します。
- ・ 地域住民の安全を守るため、丹後大震災 100 年を契機として、丹後全域で避難訓練を推進するとともに、市町や関係機関と連携し、防災意識向上のための啓発やタイムライン作成支援、防災リーダー研修等を実施するとともに、防災人材の活用や情報伝達体制の充実、防災体制を充実・強化します。
- ・ 観光客等関係人口の安全を守るため、地域や関係機関と連携し、観光危機管理の取組を進めます。

(2) あらゆる人の笑顔があふれる丹後地域づくりプロジェクト

- ・ 安心して産み育てられる子育て環境を充実させるため、子どもの居場所づくりやコミュニティの場づくりに取り組みます。
- ・ 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を確保するため、府立医科大学附属北部医療センターの機能強化等、医療提供体制の整備と医療・介護・福祉一体型の地域包括ケアシステムの充実に必要な連携体制の構築に取り組みます。
- ・ 地域住民や訪問者の移動手段を確保するため、Ma a S の活用による公共交通利便性の向上を図るとともに自動運転バスの実証を実施します。

(3) 丹後地域を支える人材確保・育成プロジェクト

- ・ 地域の活力の源となる若者や女性が丹後地域に住み続けたい、戻ってきたいと思える地域づくりを進めるため、「丹後わかもの夢実現プロジェクト」の取組を推進し、丹後で頑張る若者の夢や希望が実現できる取組や未来の丹後を切り拓く担い手づくり等を推進します。
- ・ 地域産業や地域活動を支える人材を確保するとともに、多様な人材が互いに認め合いながら活躍できる地域を実現するため、人材確保・育成の取組を実施し、多様な主体が参画できる環境を整備します。
- ・ 将来を担う若者が地域に定着し、地域社会を支える人材として成長できるよう、教育機関や地域と連携し、郷土への誇りと愛着を育む質の高い教育を提供するとともに、若者目線での情報発信や起業支援に取り組みます。
- ・ 移住希望者の増加や関係人口の更なる創出を図るため、移住者が安心して地域に定住できる受入体制や生活環境を整備するとともに、地域の魅力ある人材との交流を促進します。

(4) 「海の京都」深化プロジェクト

- 丹後の豊かな自然、歴史・文化、食、ものづくりなどの地域資源の価値を高め、観光消費の拡大と滞在時間の延長につなげるため、地域ブランドを強化するとともに、これらの資源を活用した宿泊・体験型観光を展開します。
- ランドマークである天橋立の世界遺産登録に向けた取組を進めます。
- 丹后天橋立ミュージアムを拠点とした周遊観光の取組を進め、丹後地域が有する歴史・文化・自然の価値を国内外に発信するとともに、来訪者の周遊促進につなげます。

(5) 地域が誇りを持てる活力ある産業づくりプロジェクト

- 農林水産業の生産性と収益性を高め、持続可能な農業経営を実現するため、農地の集積・集約化や基盤整備、有害鳥獣対策を進めるとともに、気候変動に対応した品種やスマート技術の導入、地域の観光産業との連携強化を実践します。
- 地域の基幹産業であるものづくり産業の競争力を強化し、持続的な発展につなげるため、他産地や異業種との連携体制を構築し、高付加価値化や新分野展開に取り組む事業者を支援します。

3 「わくわくする丹後」の実現に向けた対応の方向性

「わくわくする丹後」の実現に向けて、4つの柱に基づき施策を推進します。

(1) 危機に備え、地域で暮らし続けられる「安心できる丹後」

- ・ 大規模自然災害等に備え、ハード・ソフト両面から防災・減災や強靱化を進めるとともに、子どもから高齢者まで、誰もが健康で生き生きと、安心して暮らし続けることのできる丹後をめざします。

(2) 誰もが役割を持って活躍できる「はぐくまれる丹後」

- ・ 丹後に住み関わる一人ひとりが、それぞれの力を発揮して地域産業やコミュニティを支え、人材の確保・育成による地域活性化の好循環を生み出すとともに、移住者や応援する人、子どもたちまで誰もが地域の担い手としていきいきと活躍できる丹後をめざします。

(3) 受け継がれてきた多彩な魅力にあふれる「輝く丹後」

- ・ 丹後が受け継いできた豊かな自然や歴史・文化、食、ものづくりの伝統と高度な技術、産業基盤の強みを生かし、観光・織物・機械金属・農林水産などの地場産業の発展と新たな産業の創出を進め、地域が誇りを持てる活力と魅力あふれる丹後をめざします。

(4) 人や物の交流の基盤となるインフラ網の整備

- ・ 道路や鉄道などの交通ネットワークの整備、利便性向上を進めるとともに、道路強靱化や河川改修、治山事業、土砂災害対策等の防災基盤整備を推進し、安全で持続可能な丹後地域づくりを進めます。

4 具体的施策

(1) 危機に備え、地域で暮らし続けられる「安心できる丹後」

ア 災害に強い安全な地域の構築

□防災・減災対策を進めるため、市町や関係機関との連携を強化するとともに、地域住民の防災意識を高めるための取組を支援します。

- 地域住民の安全を守るため、丹後大震災 100 年を契機として、丹後全域で避難訓練を推進するとともに、市町や関係機関と連携し、防災意識向上のための啓発やタイムライン作成支援、防災リーダー研修等を実施するとともに、防災人材の活用や情報伝達体制の充実、防災体制を充実・強化します。
- 観光客等関係人口の安全を守るため、地域や関係機関と連携し、観光危機管理の取組を進めます。
- 福祉避難サポートリーダーの養成を推進します。

□河川整備、土砂災害対策、河道内の樹木、堆積土砂の撤去、防災上重要な道路の法面对策など、総合的な防災対策を推進します。

- 豪雨災害による被災箇所の早期復旧に取り組むとともに、豪雨や地震などの災害による被害を食い止め、地域住民の安全な暮らしを確保するため、道路の強靱化と維持管理を行うとともに、河川整備や治山対策を推進します。
- 丹後沿岸の海岸において、津波、高潮、海岸侵食等への対策として、突堤、離岸堤、護岸等の海岸保全施設等の整備を推進します。

□浸水常襲地や近年の被災地の浸水被害解消を図るため、河川整備計画に基づく河川改修等を推進します。

- 河川整備計画に基づき河川改修を推進します(福田川(本川、新庄川)、野田川(加悦奥川)、竹野川(本川、小西川)、川上谷川、佐濃谷川)。
- 由良川(国管理区間)の河道掘削や堤防整備などを河川整備計画に基づき促進します。

□災害による孤立化等を防ぐため、道路の強靱化を推進します。

- 国道 178 号(里波見～長江工区)の道路強靱化を推進します。
- 法定点検等の結果に基づき、橋りょうやトンネルなどの公共インフラの長寿命化対策を計画的に実施します。
- 国道 178 号や国道 312 号など防災上重要な道路の法面对策等を推進します。

□山地荒廃に起因する土砂流出を伴う災害を防止するため、山林から海まで水系一貫となる土砂災害防止対策を推進します。

- 河川の流下断面確保のため堆積土砂の継続的な浚渫^{しゅんせつ}(大手川・野田川等)を実施します。

- 土砂災害対策施設について、避難所や要配慮者利用施設が立地する土砂災害特別警戒区域内の整備を重点的に推進します（中谷川支川等）。
 - 砂防施設（イガロ川、平地川、真名井川、梨ヶ谷川、蛇又ヶ川、大橋川、第一辻川、中谷川支川等）や急傾斜地崩壊対策施設（谷内、小坪、谷、泉等）の整備を推進します。
 - 荒廃森林の適正な整備及び山地災害危険箇所における計画的な治山施設整備による災害に強い森づくりを推進します。
 - 台風・豪雨の激甚化を踏まえ、山地災害危険地区及び公共インフラ等への影響が懸念される箇所における危険木の除去など予防対策の推進と、市町と連携した住民周知・防災対策による防災意識の向上を図ります。
- 「防災重点農業用ため池」の劣化状況などに応じた計画的な改修や廃池など防災対策を推進します。
- 防災重点農業用ため池の劣化状況評価や地震・豪雨耐性評価の結果に基づき、計画的な改修や廃池を推進するとともに、避難訓練や地域住民への周知など、ため池安心安全マップを活用した取組を支援します。
- 原子力災害に備えた防災対策を進めます。
- 原子力発電所のU P Z（概ね 30 km）圏内の住民の避難路の整備を推進します。

イ 安心して暮らせる地域づくり

- 子どもの明るい笑顔があふれるいきいきとした地域を目指して、子育て環境日本一の取組を推進します。
- 安心して産み育てられる子育て環境を充実させるため、子どもの居場所づくりやコミュニティの場づくりに取り組みます。
 - 丹後地域の魅力創出・発信や丹後地域で地域活動や起業に取り組もうとチャレンジする若者の支援等、若者を地域に惹きつける取組を推進します。
 - 地域で子育て支援活動に取り組む団体の創出やネットワーク化を支援します。
 - 「WE ラブ赤ちゃんプロジェクト」の展開やキッズフレンドリー施設の普及などにより、子育てに寄り添う地域づくりを推進します。
 - 子どもが安心して遊べる居場所づくりなど、市町が取り組む子育てにやさしいまちづくりを支援します。
 - 地域の歴史、文化、伝統産業等に関する学習や体験、地域との交流等を通してふるさと丹後への愛着や誇りを深める取組を推進します。
 - 安全な通学路を確保するため歩道整備を推進します（国道 312 号（柅谷）、網野峰山線（郷等））。
 - 丹後地域特有の秋から冬にかけ荒天が多い気候を踏まえ、屋内施設を有する大規模レジャー施設の誘致や子育て支援団体への働きかけ等、荒天時に子育て世代が困らないための施策を推進します。

□府立医科大学附属北部医療センターの機能強化や医師派遣機能の充実など、丹後医療圏において安心して暮らせる地域医療体制を構築します。

○府立医科大学附属北部医療センターが、地域における中核病院としての役割を果たすために、医療需要や疾病構造の変化を踏まえた施設・設備の整備を行うなど機能強化に向けた取組を推進します。

○丹後圏域保健医療協議会や丹後地域医療構想調整会議、丹後医療圏域内6病院との連携をさらに強化し、地域の実情を踏まえた病床機能など医療供給体制を確保します。

□新型コロナウイルス感染症対策の経験を生かして、新たな感染症等の発生時にも速やかに対応できる体制を整えます。

○感染症患者等を受入れるために必要な人材の育成に向けて、関係団体や医療機関が行う研修等の取組を支援します。

○介護職員が感染症発生時において速やかな対応が行えるよう、感染対策に係る知識の普及・啓発のための研修会の開催等の取組を支援します。

□医療・介護・福祉一体型の地域包括ケアシステムの充実により、安心して暮らせる地域づくりを推進します。

●住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を確保するため、府立医科大学附属北部医療センターの機能強化等、医療提供体制の整備と医療・介護・福祉一体型の地域包括ケアシステムの充実に必要な連携体制の構築に取り組みます。

□野生動物による生活環境被害を防止するため、共存に配慮しながら、捕獲等対策を強化します。

○有害鳥獣の捕獲強化と個体管理の推進と防護柵の適切な管理や農地周辺環境の整備、捕獲の担い手確保等の取組を強化します。

□持続可能な地域を目指し、水平型に連携して施策を展開する京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会との協働を進めます。

○京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会による、人口減少・少子高齢化社会に対応した持続可能な地域づくりを目指した政策間連携の深化を支援します。

ウ 元気に住み続けられる環境の整備

□「ワールドマスタースゲームズ 2027 関西」の開催を契機としたスポーツへの機運の高まりを継続・発展させるため、市町と連携し、さらにスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

○丹後大学駅伝等の競技大会の開催など、スポーツを通じた地域活性化や交流促進を支援します。

□市町や様々な団体と連携し、誰もが文化に親しめる地域を構築します。

- 丹後地域に配置する地域アートマネージャーを中心に、地域の文化団体や市町等と連携して、文化芸術活動を通じた地域活性化、文化芸術に携わる人材育成の取組を推進します。
- 丹後天橋立ミュージアムリニューアルオープンを契機として、同館を丹後の歴史・文化・観光のハブと位置付け、地域と連携し天橋立の魅力を発信するとともに、天橋立を中心とした丹後地域の豊かな歴史・文化資源を活かした周遊観光の取組を推進します。

□市町や地域団体などと連携し、地域外の力も借りて、地域の環境やコミュニティを守るための取組を強化します。

- 阿蘇海環境づくり協働会議を中心に、市町、地域の住民や企業、大学生ボランティアとともに、阿蘇海の環境改善に向けた啓発等の取組を推進します。
- 天橋立地域をはじめとする海面における水上オートバイ等の秩序ある安全航行など、海面利用における安全対策に係る取組を推進します。
- 商店街や個店のD X化を促進し、高齢者や子どもの見守り、子育て世代への支援など、地域のコミュニティの場としての機能の発揮に向けて取り組む商店街を支援します。

□市町や様々な団体と連携し、住民の移動手段を確保するための取組を推進します。

- 地域住民や訪問者の移動手段を確保するため、M a a S の活用による公共交通利便性の向上を図るとともに自動運転バスの実証を実施します。
- 京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会と連携し、京都丹後鉄道の利用促進をはじめ公共交通の利用拡大に向けた取組を支援します。

(2) 誰もが役割を持って活躍できる「はぐくまれる丹後」

ア 移住・定住や地元への若者の定着の促進

□移住・定住に係る市町担当課や関連団体との連携により地域一体となって移住・定住を促進します。

- 「京都府移住の促進及び移住者等の活躍の推進に関する条例」に基づく「移住促進特別区域」の拡大を図るとともに、居住可能な空き家物件の空家バンクへの登録促進や移住者が居住する空き家の改修等を支援します。
- 北部地域連携都市圏形成推進協議会が運営する京都府北部U I ターンプロジェクト「たんたんターン」との連携を推進します。
- 丹後に興味のある若者と地域を支える魅力的な人材との交流促進等、移住者や関係人口が住民とともに地域社会の担い手として活躍できる地域づくりを推進します。

□移住者が、地域で安心して生活できるよう、住居の確保だけでなく、就学、就業、出産、子育て、地域での役割等の必要な情報提供を行うなど、総合的な支援を実施します。

- 移住者と地域とのミスマッチを防ぐため、地域の魅力や移住者に求める人物像などを地域自らが積極的に発信する取組を支援するとともに、移住が円滑に進むようジェンダーギャップ等にも着目し受入地域における住民意識の醸成を図ります。

□将来を担う若者の地域定着や多様な関係人口が活躍できる地域づくりを推進します。

- 地域の活力の源となる若者や女性が丹後地域に住み続けたい、戻ってきたいと思える地域づくりを進めるため、「丹後わかもの夢実現プロジェクト」の取組を推進し、丹後で頑張る若者の夢や希望が実現できる取組や未来の丹後を切り拓く担い手づくり等を推進します。
- 将来を担う若者が地域に定着し、地域社会を支える人材として成長できるよう、教育機関や地域と連携し、郷土への誇りと愛着を育む質の高い教育を提供するとともに、若者目線での情報発信や起業支援に取り組みます。
- 移住希望者の増加や関係人口の更なる創出を図るため、移住者が安心して地域に定住できる受入体制や生活環境を整備するとともに、地域の魅力ある人材との交流を促進します。
- 若者や女性の目線による丹後の魅力の創出・発信や起業支援に取り組むなど、若者や女性を地域に惹きつける取組を推進します。
- 市町が進める二地域居住やふるさと住民登録等関係人口創出につながる取組や関係人口を移住定住につなげる取組を支援します。

イ 地域企業等と連携した人材の確保・育成

□就業支援機関、人材育成機関、産業支援機関、移住施策支援機関と協力し、企業や事業所の人員確保と人材育成を支援します。

- 地域産業や地域活動を支える人材を確保するとともに、多様な人材が互いに認め合いながら活躍できる地域を実現するため、人材確保・育成の取組を実施し、多様な主体が参画できる環境を整備します。
- 市町や産業分野の枠を超えて、高齢者や業務経験者、子育て世代等地域の潜在労働力を活用する仕組みづくりや外国人労働者等を確保するための取組を推進します。

□農村の集落機能の維持や農地保全に向けて、多様な人材による担い手の確保や集落営農組織等が中核となった地域の合意形成に向けた取組を支援します。

- 農業従事者以外の農村居住者に対して、農地の持つ多面的機能の理解を促し、保全活動への積極的な参加を促進します。
- 農福連携や季節労働者、外国人労働者の雇用など、多様な人材による農林水産業の担い手の確保の取組を支援します。

□海の民学舎生などの意欲ある担い手に漁業が確実に承継されるとともに、経営力の高い生産者（漁業者・企業）が意欲的かつ効果的な経営を実践できるよう環境整備を推進します。

- 現状のニーズにあわせ、海の民学舎のカリキュラムの最適化や海洋高校との連携強化を図り、若い世代の人材育成を図ります。

ウ 誰もが生き生きと暮らせ、人権が尊重される社会の実現

□単独では集落機能を維持することが困難な農村集落が連携する「農村型地域運営組織（農村RMO）」の構築を進めます。

- 農地の保全や生活支援などの地域活動とともに、地域資源を活用した収益活動を行う「農村型地域運営組織（農村RMO）」の設立を目指す取組を、市町に配属された「地域おこし協力隊」等と連携し支援します。

- NPO等の活動を支援するとともに、NPO等と行政・民間企業等との連携を進め、地域の多様な主体によるプラットフォームを構築し、地域の課題に対応した取組を推進します。

- 地域課題解決に向けた活動を支援する地域未来づくりプロジェクトを推進するとともに、NPOパートナーシップセンター機能の充実により地域団体の活動を支援します。

- 高齢者・障害者や在留外国人など、多様な人々が地域を担う一員として安心して生活し活躍できるよう、市町等と連携し、多文化共生をはじめとする地域づくりの取組を推進します。

- 丹後圏域障害者自立支援協議会を中心に、障害者の自立に向けた支援を実施します。

- 高齢者が持つ技術・経験の積極的な活用を図るとともに、次世代への継承のための取組を支援します。

- 市町や関連団体と連携し、外国人住民の生活や災害時の支援を行うサポート体制の整備、交流の場の創出など多文化共生の取組を推進します。

- 部落差別をはじめ女性、高齢者、障害者、外国人、LGBTなど性的少数者等に対する様々な人権問題に対し、あらゆる機会を通じた多様な教育の実施や、人権強調月間・人権週間における取組を推進するとともに、人権問題法律相談など相談体制の充実を図ります。

エ 丹後の未来を担う人づくり

- 丹後で生まれ育つ子どもたちがふるさと丹後に誇りと愛着をもち、次代の地域づくりの担い手となるような教育を進めます。

- 地域の歴史、文化、伝統産業等に関する学習や体験、地域との交流等を通してふるさと丹後への愛着や誇りを深める取組を推進します。（再掲）

- 丹後の子どもたちや地域外の住民・企業等に丹後の農林水産業や農山漁村の魅力を発信し、未来の農山漁村を支える人の拡大を図ります。

- 地域外の人や団体と連携して、農山漁村集落の維持・活性化に向けた活動を行う「参加型住民づくり事業」をはじめ、子どもたちが農村の多面的機能を学習・体験する「ふるさと発見隊」や都市住民がふるさとの守り手として参加する「さとボラ」、学校と農村地域が連携する「教育実践パートナーシップ活動」などの取組を推進します。

- 食育を通じた未来の丹後を担う人づくりを進めます。

- 食育活動のネットワーク化や、地域で食育を推進する中核的な食育ボランティアの育成を図るとともに、地域住民が丹後地域への愛着を深め、丹後の食文化を発信できるよう、丹後ならではの食育を推進します。

□地域と大学生との協働事業を推進し、地元の高校生等との交流を通じ、未来を担う人づくりを進めます。

- 地元高校生等と丹後地域で活動する大学生等との交流を通じて、地域の未来を担う高校生が地域に主体的に関わろうとする意識をはぐくむ取組を推進します。

（３）受け継がれてきた多彩な魅力にあふれる「輝く丹後」

ア 「海の京都」構想の更なる深化

□京都府北部地域連携都市圏振興社（通称：海の京都DMO）と連携し、「海の京都」のブランド力向上、食・文化・地域産業・自然景観など丹後の多彩な地域資源を活用した国内向けの観光誘客を推進するとともに、インバウンド誘客のための海外プロモーション事業を推進します。

- 丹後の豊かな自然、歴史・文化、食、ものづくりなどの地域資源の価値を高め、観光消費の拡大と滞在時間の延長につなげるため、地域ブランドを強化するとともに、これらの資源を活用した宿泊・体験型観光を展開します。
- ランドマークである天橋立の世界遺産登録に向けた取組を進めます。
- 丹後天橋立ミュージアムを拠点とした周遊観光の取組を進め、丹後地域が有する歴史・文化・自然の価値を国内外に発信するとともに、来訪者の周遊促進につなげます。
- 丹後天橋立ミュージアムへのアクセス手段の向上について関係機関と取り組むことにより、有名観光地に集中する観光客の丹後天橋立ミュージアムへの流れを創出します。
- 観光関連団体等と連携し、ナイトミュージアムや夜間ライトアップ等のナイトタイムエコノミーを推進します。
- 海産物や果樹等、丹後産農林水産物を活かした「食」の魅力向上、食・自然・文化など地域の魅力ある観光資源を組み合わせた体験型、高付加価値型、２泊３日以上宿泊滞在型観光の充実を図ります。
- 織物・機械金属業等の地場産業を活かし、地域の魅力向上や地域資源の高付加価値化を図ります。
- 丹後地域における関係人口の創出・拡大を図るため、市町や関係団体と連携した取組を推進します。
- 十分活用されていない地域資源の活用可能性を検討します（経ヶ岬周辺、世屋高原、丹後縦貫林道等）。
- 古代丹後王国の史跡・文化財を活用した周遊の仕掛けづくりとウォーターフロントの観光資源の拡充を図ります。

□天橋立の世界文化遺産登録をめざし、丹後の自然環境や文化の保全・発信・活用とともに、地元での機運醸成の取組を進めます。

- 白砂青松の天橋立を後世に継承するため、天橋立公園松並木景観保全計画等に基づく松並木や砂浜の適正な保全等の取組を推進します。
- 丹後の歴史・文化・観光拠点となる丹後天橋立ミュージアムをハブ施設として地域と連携し、天橋立の魅力を発信するとともに、天橋立を中心とした周遊観光を促進します。

□丹後の自然・景観・歴史・文化などを間近に体感できる周遊観光のツールとして自転車を活用する取組を推進します。

○ナショナルサイクルートの指定に向け自転車道のリニューアルや丹後地域の観光地を巡るサイクリングコースの路面表示等の整備や活用を推進します。

イ ものづくり産業等地域産業の振興

□「絹織物といえば丹後」と言われるような、世界中から人を惹きつけ、注目される産地づくりを進めます。

○丹後織物の販路拡大を目指し、「TANGO OPEN CENTER」を拠点に、海外をはじめ商談機会のさらなる創出を図るとともに、国内外のクリエイターの創作活動の拠点として新たな商品づくりを支援します。

○西陣織・京友禅・丹後織物の3つの産地が連携し、ファッションやインテリア業界等国内外の様々なブランドにおいて活用され、経済的・産業的価値を生み出せる商品づくりとそれを実現する生産体制の再構築を展開します。

○SNSやオープンファクトリー等を通じ、丹後のものづくり産業の魅力を広く発信します。

□丹後織物の次世代への技術継承を図るとともに、市場ニーズに合った商品開発を推進します。

○各工程技術や織機調整技術などを次世代に継承する取組を行うとともに、織物業を中心とする若手事業者等を対象に、地域内企業が持つノウハウや販売チャンネル等地域内リソースを活かし、新分野進出を支援する異業種連携プラットフォームを構築します。

○若者やUIターン者など、人材確保につなげる織物産地の魅力発信や人材の受入れを支援します。

○持続可能な産地生産体制の確保のため、加工・生産設備導入支援、異業種連携による調達困難な機料品の代替品試作等を実施します。

□機械金属業において、中小企業の新分野進出を支援するとともに、AI・IoT技術等を活用した支援を実施します。

○外部の専門家（京都府中小企業特別技術指導員）も活用した技術支援や勉強会など目指す新産業への参入を後押しする取組を推進します。

○IoTを活用したシステム導入やIoT人材の育成を推進します。

□地元教育機関や産業団体等と連携しものづくり産業の人材確保対策を進めます。

○将来を担う人材を確保するため、学齢（小中高大学生）に応じた取組や、大学教員や地域住民の地域産業理解を深める取組を継続的に実施します。

□産業団体等と連携し企業の技術力向上や企業の新分野進出を支援します。

●地域の基幹産業であるものづくり産業の競争力を強化し、持続的な発展につなげるため、他産地や異業種との連携体制を構築し、高付加価値化や新分野展開に取り組む事業者を支

援します。

- （公財）京都産業 21 北部支援センターと連携し、ものづくり事業者の育成と高度化を図る研修のほか、新分野進出に必要な国際的認証取得など時代の潮流に沿ったセミナーを開催します。
- サステナブルパークへの企業誘致を推進します。
- 企業の技術力向上や新分野進出に向け、丹後地域の農林水産業等が抱える課題解決のための、機械金属や織物関連企業の強みを生かした新技術や新商品開発の取組を支援します。
- 企業の技術力や市場動向に応じた商品開発・技術開発を具体的に提案する「提案型研究開発」を推進します。

□ 厳しい経営環境にある中小企業の経営と円滑な事業承継を支援します。

- 金融機関、経営支援機関が一体となった伴走支援体制を構築し、厳しい経営環境にある中小企業の実状を踏まえたきめ細かな経営相談等の実施により事業継続を支援します。

ウ 「食」や「暮らし」を支える農林水産業の振興

□ 丹後地域の農林水産業における栽培・生産技術の向上等を図る取組を推進します。

- 農林水産業の生産性と収益性を高め、持続可能な農業経営を実現するため、農地の集積・集約化や基盤整備、有害鳥獣対策を進めるとともに、気候変動に対応した品種やスマート技術の導入、地域の観光産業との連携強化を実践します。
- 常態化する猛暑・渇水への対策に向けて耐性品種の開発や新たな農作物への挑戦を支援します。
- 丹後地域の特産物であるコメ、果樹、加工契約野菜など、近年の気候変動に対応した技術改良など研究の面から生産を支えます。

□ 農地集積・集約化による生産性の向上や、高収益作物の導入を進めるため、生産基盤の整備に取り組みます。

- 農地の大区画化・汎用化や用排水施設の改良、スマート技術を組み合わせた先進的な技術導入や農業生産基盤の整備を推進します。
- 国営開発農地を次世代の担い手へ円滑に継承するため、トレーニングファームや実践農場を実施し、担い手の確保・育成を推進します。
- ジャストインタイム物流の実現に向けた実証に取り組みます。

□ ブランド力向上や新たな販売チャネルの拡大などによる所得向上への取組を支援します。

- 果樹等を中心とした海外輸出や観光事業者との連携など、実需者ニーズを踏まえた農林水産物の品質の向上や新たな販売チャネルの拡大を支援します。
- フードテック実証見学等の観光コンテンツ化を掛け合わせ、稼げる一次産業を実現します。
- 丹後王国「食のみやこ」を拠点として農業のショーケース化を図ります。

□森林整備の推進や森林資源の活用拡大の取組を支援します。

- 京都府豊かな森を育てる府民税や森林環境譲与税を活用し、森林整備や地域産木材の利用拡大を通じた森林資源の循環利用と担い手の確保・育成を推進します。

□畜産農家の法人化を進めるとともに、第三者経営継承等により畜産の担い手を確保します。

- 新規就農者の確保や担い手の育成・定着を推進します。

□漁業振興を図るため、「養殖生産の拡大」と「観光との連携」を軸とする施策を集中して展開するとともに、意欲ある担い手への承継を推進します。

- 安定的な二枚貝（トリガイ等）養殖等高水温に対応した養殖技術の改良や高水温に強い新品種の育成を推進します。
- 京都らしさを活かした新しいブランド水産物を開発します。
- 現状のニーズにあわせ、海の民学舎のカリキュラムの最適化や海洋高校との連携強化を図り、若い世代の人材育成を図ります。（再掲）
- 海洋センターの機能強化を図ります。

□農山漁村が有する地域資源を活かした観光コンテンツ創出を支援します。

- 農山漁村の暮らしを体験し、地域との交流を生み出す農家民宿や漁家民宿の開業を支援します。

□有害鳥獣対策に取り組めます。

- 有害鳥獣の捕獲強化を図るとともに、防護柵の適切な管理や農地周辺環境の整備、捕獲の担い手確保等の取組を推進します。

（４）人や物の交流の基盤となるインフラ網の整備

ア 地域産業を支える基盤整備

□海の京都観光圏の観光ルートの形成や地場産業に係る流通を強化するとともに、地域住民の暮らしの利便性向上を図るなど、京都府北部地域のさらなる活性化に寄与する山陰近畿自動車道の早期全線開通を促進するとともに、アクセス道路の整備を推進します。

- 山陰近畿自動車道の早期全線開通に向け、京丹後大宮ＩＣ～（仮称）網野ＩＣ間の整備、（仮称）網野ＩＣ～（仮称）城崎温泉ＩＣ間のルート確定を促進します。
- インターチェンジアクセス道路の整備を推進します。（国道 312 号大宮峰山インター線）

□地域住民の暮らしの利便性向上を始め、歩行者等の安全や観光振興に寄与する国道 178 号などの丹後半島一周道路や、山陰海岸ジオパーク関係路線の整備を推進します。

- 国道 178 号（カマヤ工区、袖志工区）
- 網野岩滝線（外村バイパス、男山バイパス）
- 浜丹後線（上野平バイパス）
- 間人大宮線（丹後工区）

- 宮津養父線（岩屋峠）
- 掛津峰山線（丹波バイパス）
- 久美浜湊宮浦明線（西回り線）
- 国道 312 号（五箇～鱒留バイパス）

□ 地域住民の生活や地場産業の発展を支える重要な道路の総合的な防災対策を推進します。

- 国道 178 号（宮津市日置～伊根町）の道路強靱化を推進します。

丹後地域振興計画の数値目標

(1) 危機に備え、地域で暮らし続けられる「安心できる丹後」

指標名称	単位	基準値	数値目標
地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	%	36.4 (2025 年度)	45.0
振興局が連携し、子育て支援団体が取り組む活動数（延べ）	件	5 (2025 年度)	30
住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思う人の割合	%	77.4 (2025 年度)	85.0

(2) 誰もが役割を持って活躍できる「はぐくまれる丹後」

指標名称	単位	基準値	数値目標
将来、丹後に住みたいと思う管内高校生 3 年生の割合	%	47 (2025 年度)	55
趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある人の割合	%	74.1 (2025 年度)	80.0
京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっていると思う人の割合	%	33.1 (2025 年度)	50.0
住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	%	77.4 (2025 年度)	90.0

地域振興計画に掲げた取組について、その進捗を客観的に評価するため、計画の最終年度（2030年）における数値目標を設定します。

※他の計画に位置付けられた数値目標を本計画において設定しているものについては、他の計画の期間満了等によりその計画が改定された場合は、改定後の計画で位置付けられた数値目標に置き換えるものとします。

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
地域の防災、防犯体制の強化・充実により、約 10 ポイントの増加をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	2027 年度：39.0 2028 年度：41.0 2029 年度：43.0	ア
子育て環境の課題解決に繋がる活動を推進するため、基準値から 6 倍の活動数をめざす	丹後広域振興局による実態把握	2027 年度：12 2028 年度：18 2029 年度：24	イ
地域包括ケアシステムの充実や地域交通等、暮らしやすい地域づくりの推進により、約 5 ポイントの増加をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	2027 年度：79.0 2028 年度：81.0 2029 年度：83.0	イ

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
2030 年に 55%を目指す。	丹後教育局による高校生意識調査アンケート	2027 年度：49 2028 年度：51 2029 年度：53	ア
地域住民の活動支援により 80%をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	80.0 （毎年度）	ウ
人権尊重の取組を進め、50%をめざす	京都府人権尊重の共生社会づくり施策推進計画に関する府民調査（京都府）	—	ウ
子育て環境の充実を進め、早期に 90%をめざし、この数値を維持していく	京都府民の意識調査（京都府）	90.0 （毎年度）	エ

(3) 受け継がれてきた多彩な魅力にあふれる「輝く丹後」

指標名称	単位	基準値	数値目標
歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合	%	77.2 (2025 年度)	90.0
海の京都エリアの観光消費額単価	円	16,092 (2025 年)	24,000
丹後天橋立ミュージアム年間入館者数	人	-	50,000
従業者 1 人当たりの粗付加価値額（製造業）	千円	9,365 (2025 年)	12,000
低コスト・省力生産を行う作付面積	ha	36 (2025 年度)	100

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
歴史的な文化遺産や文化財などを社会全体で守る取組を進め、90%をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	90.0 （毎年度）	ア
目標年に基準年の約 1.5 倍	京都府観光入込客等調査（京都府）	2027 年：18,000 2028 年：20,000 2029 年：22,000	ア
リニューアル効果及び継続的な魅力向上により、50,000 人をめざす	丹後天橋立ミュージアムによる実態把握	2027 年度：25,000 2028 年度：45,000 2029 年度：47,000	ア
目標年に基準年の約 1.3 倍	経済構造実態調査（経済産業省）	2027 年：10,000 2028 年：10,700 2029 年：11,400	イ
毎年 15ha 増加させ、2030 年に 100ha をめざす	丹後広域振興局による実態把握	2027 年度：65 2028 年度：80 2029 年度：95	ウ

参考資料

丹後地域戦略会議委員名簿

(令和8年8月現在)

氏名	役職等
座長 谷口 知弘	福知山公立大学地域経営学部 教授
今井 一雄	宮津商工会議所 会頭 株式会社三洋商事 CEO 取締役会長 一般社団法人京都経済同友会 北部部会長
沖田 真奈美	株式会社アウルコーポレーション 代表取締役社長
河田 恵美	Pristine Kyoto 代表
京崎 操	京都北都信用金庫 顧問
櫛田 啓	社会福祉法人みねやま福祉会 理事長
小林 朝子	一般社団法人丹後暮らし探求舎
坂中 綾香	つながる防災まもりっこ 代表
塩野 浩士	株式会社シオノ鑄工 代表取締役
柴田 孝洋	漁師の民宿 しばた荘 店主
城下 和彦	指導農業士、米農家城下
安田 章二	安田織物株式会社 代表取締役

(五十音順(座長除く)・敬称略)